

# やまぼうし通信

しんじだい  
やまぼうし新時代にむけて

しんたいせい  
新体制スタート!

とくしゅうごう  
特集号

NO. 135 2024年8月25日

## わたし 「私たちはどこからきて、どこに向かうのか」

だつしせつ  
「脱施設～共に生き働くまちづくり」の事業蓄積を土台に、「共生型コミュニティ創造」の高原に向かう

めざ  
目指すは～「多様な社会課題に挑む 人々を繋げるプラットフォームづくり」のキーステーション

2024年度NPO法人 やまぼうし定期総会が、6月21日に「平山台健康支援センター」で開催されました。総会では、やまぼうしの現場を支えて、勤続10年を越えられた6名の方が永年勤続者として表彰されました。くらしごと 阪野啓代 / やまぼうし平山台 榎本誠・藤原多恵・高橋和恵 / くらさわ 藤塚優理子 / わんど 吉沢美春 (敬称略) の皆さんです。ありがとう♪ おめでとうございます♪ 引き続いてのご活躍を期待します。

長年、副理事長としてご尽力いただいた草場清則氏が退任されました。物心両面で献身的なご協力を法人創設前から今日までご努力をいただいたことに心より御礼申し上げます。なお、法人の理事としては、残留され、やまぼうしの新たな重層的な事業提携体制の構築に指導・協力を頂くこととしています。

さらに、やまぼうしの懸案であった世代交代と本部体制の強化を前進し、専務理事に菊池益生さん、常務理事に田中拓哉さん、新理事に亀井太さん、伊藤佳織さん(エグドーム責任者)がそれぞれ就任されました。また、この間、本部スタッフの拡充を進めてきましたが、新規に実務経験豊富な経理担当と労務担当者を1名ずつ増配置しました。先に配置してきた研修・人事担当者は、エンプロチームへのサポートと研修計画(年間・月間)の策定実施等で活躍されています。大規模災害が頻発している中、やまぼうし独自のBCP(事業継続計画)をすでに策定しましたが、やまぼうし単独では対応できない課題が山積しています。この分野でも多分野協働のプラットフォームの形成は急務です。

定期総会では、矢崎功監事より監査報告があり、承認されました。議案は10本提起され、いずれも賛成多数で承認されました。事業計画では、

★就業規則および賃金規程の変更 ★居住支援特別手当の明記。★正規職員の定年が66歳に延長

★正会員の会費変更では、正会員の年会費が24,000円から15,000円に変更されました。会費負担を軽減し、職員の経営参加を促進します。一般会員の年会費は変わらず3,000円です。昨年度の会費と寄付金収入は、

合計で2,761,929円でした。★新規にミレットロードとの事業提携協定が締結されました。これを機に、「多分野協働

の重層的プラットフォーム」づくりを本格化させていくことが承認されました。

# 「共に生きる自分たちの未来を計画するために」

多摩防水技研株式会社 代表 やまぼうし 理事(前副理事長) 草場 清則



皆様に支えられて、やまぼうしも23年の歴史を重ねることができました。

感謝申し上げます。私草場は、今後理事の一人として認定NPO法人やまぼうしの発展に寄与できればと思います。やまぼうしの現場で活躍されている皆様の中からも、新しい指導者が育ち、事業承継が進むことを祈念いたします。

私が現在代表を務める多摩防水技研は、1984年に多摩市にて七生福祉園の卒園生と2人でスタートした会社です。バブル崩壊までの約20年間、七生福祉園の卒園生が、多い時で7名くらい一緒に仕事をしていました。利益優先で会社を大きくすることもなく、一緒に現場で働く日々で、職人として現場労働に従事していました。バブルが崩壊し、やまぼうしがスタートする頃、弊社も大きく様変わりします。大きな建築現場で彼らと仕事を続けることは困難になったからです。ゼネコンの二次下請けとして仕事受注をしていた体制から、直にゼネコンや民間のお客様からの受注に切り替えました。また、社会的課題としての温暖化対策が必須な時代になると思い、生業としての防水の仕事のやり方を見直し、エコを提案できる新しい工事技術の確立を目指しました。『新防水工法の確立(100年寿命の建築に対応できる技術創出)』を経営革新計画として東京都に承認されたのは2009年10月のことです。その後、さらに2回(計3回)の承認を受けて実行中です。計画を具体化するために、八王子市に工場を入手しました。

## TAMABOU® はエコで災害に強いまちづくりを目指します

- 認定NPOやまぼうしと連携 障壁を超えた働き方改革の移行
- ポリウレタ樹脂を素材に、建造物の長期保全に役立つ技術開発と製品製造
- 100年防水への道 (事務所棟上)
- 再施工が困難な太陽光発電パネル下に20年保証の防水を(第二工場屋根)
- 雨水の一次ストックと有効利用 給水システムの開発・壁面緑化
- スレート屋根の強化、アスベスト囲い込み、剥落防止による建物の長寿命化(第一工場屋根)
- 協力業者に向けた 研修施設の提供
- 難燃性断熱材による緑化用緑石、温室、畜舎、外断熱防水工法の開発
- ポリウレタ樹脂を使ったプラントの試作(敷地各所) ベランダ・街路などの植物生育をコントロール

(多摩防水技研株式会社 建築工場 全景イメージ)

## 連携によるイノベーションプラットフォームをつくります

多摩防水技研株式会社

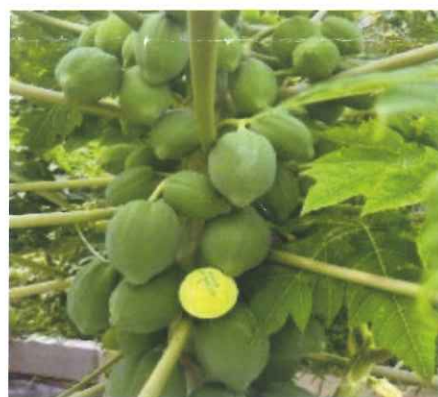
工場に設備投資する前に、コロナ禍に見舞われ、計画の延期を余儀なくされました。建築業は現場仕事が半減し、苦しい時期を重ねました。人流制限が解除され計画を実行するために政策金融公庫との協議の結果、『劣後ローン(資本性融資)』を昨年9月に認められ、弊社の開発は再スタートしました。特許を有することから、一昨年は、関東経済産業局に『知財経営定着経営伴走支援』を、今回は弊社技術の標準化支援を承認していただき、あたらしい標準化のルール作りが現在進行中です。(2040年の未来を見据えた、新技術の標準化への取り組みです。)

ながなが へいしゃ か りゆう さいがい つよ まち め ぎ へいしゃ ぎじゆつ  
長々と弊社のことを書いてしまいましたが、理由があります。エコで災害に強い街づくりを目指す弊社の技術は、  
にほん てき しきさい へいしゃ こうじよう こ かた しょうち おも たぶん  
日本でオンリーワンの色鮮やかな色彩があります。弊社の工場へ来られた方はご承知と思いますが、多分、やまぼうしの  
しゅうろうけいぞくしえん がたじぎようしょ てんかい おお かのうせい ぎじゆつ ねんかん なお そつえんせい いっしょ  
就労継続支援B型事業所として展開できる、多くの可能性のある技術があります。20年間七生の卒園生と一緒に  
げんば はたら どうじ いま へいしゃぎじゆつ たよう しごと げんばぎじゆつ ていきよう  
現場で働いてきたわけですが、当時、今の弊社技術があれば、多様な仕事（現場作業しか提供できなかった）を  
えら たの いっしょ しごと おも ざんねん へいしゃ よゆう  
選んでもらい、もっと楽しく一緒に仕事ができたと感じます。残念ながら、弊社にはまだ余裕がなく、こちらから  
さぎよう さいぎよう さいぎよう さいぎよう  
システムとしての作業をやまぼうしに提供する余裕は今ありません。しかし、やまぼうしも多くの企業・組織と  
じぶんたち どりよく れんけい ひつよう じぶん いまも たよ てんかい げんかい  
自分達の努力で連携していく必要があります。自分たちの今持っているスキルだけに頼り展開することは、限界が  
あります。理事長が推進している他業種との連携の時代になると感じます。



これは、パパイヤです。昨年10月中旬頃の写真です。寒さ対策が間に合わず、  
がつか ことし ねんじゅう せいいくかのう かんきよう  
12月に枯れてしまいました。今年は、1年中、生育可能な環境づくりを  
こころ こうけん そとだんねつぎじゆつ おうようれい ひと  
試みています。エコに貢献するための外断熱技術の応用例の一つです。

これは、熱帯スイレンですが、植えて  
ある鉢は、プラスチックではなく、日曜  
だいくてん えん こうにゅう  
大工店で2000円くらいで購入しまし  
た。ウレアという、ほとんど劣化しない



とうめい とりよう とふ ねんじじょうしやう か  
透明の塗料を塗布すると、10年以上使用できる、プラスチックに代わるものと  
して、かなり高額で販売可能かと思えます。仕事は、与えられるより、自分達  
つく たの かし おも りえき で  
で作るから、楽しく価値あるものかと思えますし、利益も出ます。これから、

ねんさき み ふくし りやうしゃ かんが じぎょうしやうけい れんけい つう ゆた たようせい なか  
10年先を見つめ、福祉サービス利用者とのプログラムを考えた事業承継が連携を通じ、より豊かな多様性の中で  
てんかい きたい さくねん な しゃかいがくしゃ みたむねすけ いこう ほん いちぶ しょうかい  
展開されることを期待いたします。昨年亡くなった社会学者の見田宗介さんの遺稿ともいえる本の一部をご紹介します  
ます。【現代社会はどこへ向かうか】の本の中に、宮沢賢治の詩稿を引用し、新し世界を創造するために、①**ポジ**  
**ティブであること、②多様性を認めること、③現在を楽しむこと、この三つが新しい時代の胚芽を作る原則**とあり  
ます。今を思い切り楽しみながら、一緒に活動できる関係性の構築を、やまぼうしで利用者さんの笑顔に結びつく  
けいかく こんご じぎょうしやうけいけいかく なか い ころ きねん  
計画が、今後の事業承継計画の中に活かされますように心より祈念しております。

## くさば きごう 草場さんの寄稿によせて

## とも あゆ みち みらい み ～共に歩んできた道のりと未来を見つめて 伊藤 勲

「共に生きるための自分達の未来をつくる計画を」～草場さんの素敵なメッセージ。感慨深い想いです。草場さん  
と私の出会いは、1970年で同じ20歳代の「蒼き狼時代」でした。以来半世紀の時空を共に生き、支え合ってきた  
わたし もっと しんらい くさば おお なかま きまうゆう わたし がくせいじだい ねんかん  
私の最も信頼するパートナーです。草場さんとは多くの仲間を共有してきました。私は学生時代2年間のイスラ  
エル・キブツ研修で『キブツこどもの家での価値意識の形成過程』を研修テーマとしました。草場さんと共通の友人  
きしだてつ にほんきやうどうたいきやうかい せんぜん しゃかいてき はいじょ ひとびと どんじ きやうどうたい う い  
である岸田哲さん（日本協同体協会）は、戦前から社会的に排除されてきた人々を独自の共同体で受け入れてきた  
なら おおやまとあじさいむら はい にほんさいしよ りやうごしせつ すがわらえん しょうだいしせつちやう つと くさば  
も「大倭紫陽花邑」に魅入られ交流を重ねられていました。私は、キブツ研修後、満蒙開拓団からの帰国者グルー  
プが、茨城の利根川の湿地帯で開拓した「新利根協同農場」に入りながら、「早稲田奉仕園」を中心に活動してい  
たワークキャンプ運動「フレンズ」に参加しました。そこで、「原町成年寮」（知的障害者通勤寮の草分け）での

伴走型支援活動と離職者の仕事づくりを経験しました。その時期、全国の施設の農産物を都内で定期的に宅配する「グループ運び屋」の活動に協力した縁で、後の「おちかわ屋」が誕生しました。この時期、草場さんも、「千葉の有機野菜」栽培農家の支援で東京でのパック野菜の販売活動を支援しながら、見田さんたちとの「都市型コミュニティ」を夢想する営みを重ねられていました。私は加藤彰彦さん（元沖縄大学長）達との協団体構想が挫折し、東京都が満蒙開拓団拓務訓練所跡地に開設した、「旧戦災孤児収容施設・七生児童学園」の「七生福祉園」で養豚や椎茸栽培をしているのを知り、東京都職員として「福祉の業界」に足を踏み入れました。

## 1. 隔離収容型施設・病院での「障害者と職員の間を取り戻せ！」施設の抜本的改革に全力投入した時代 ～鳥は空に！魚は海に！人は社会に！が合言葉に～

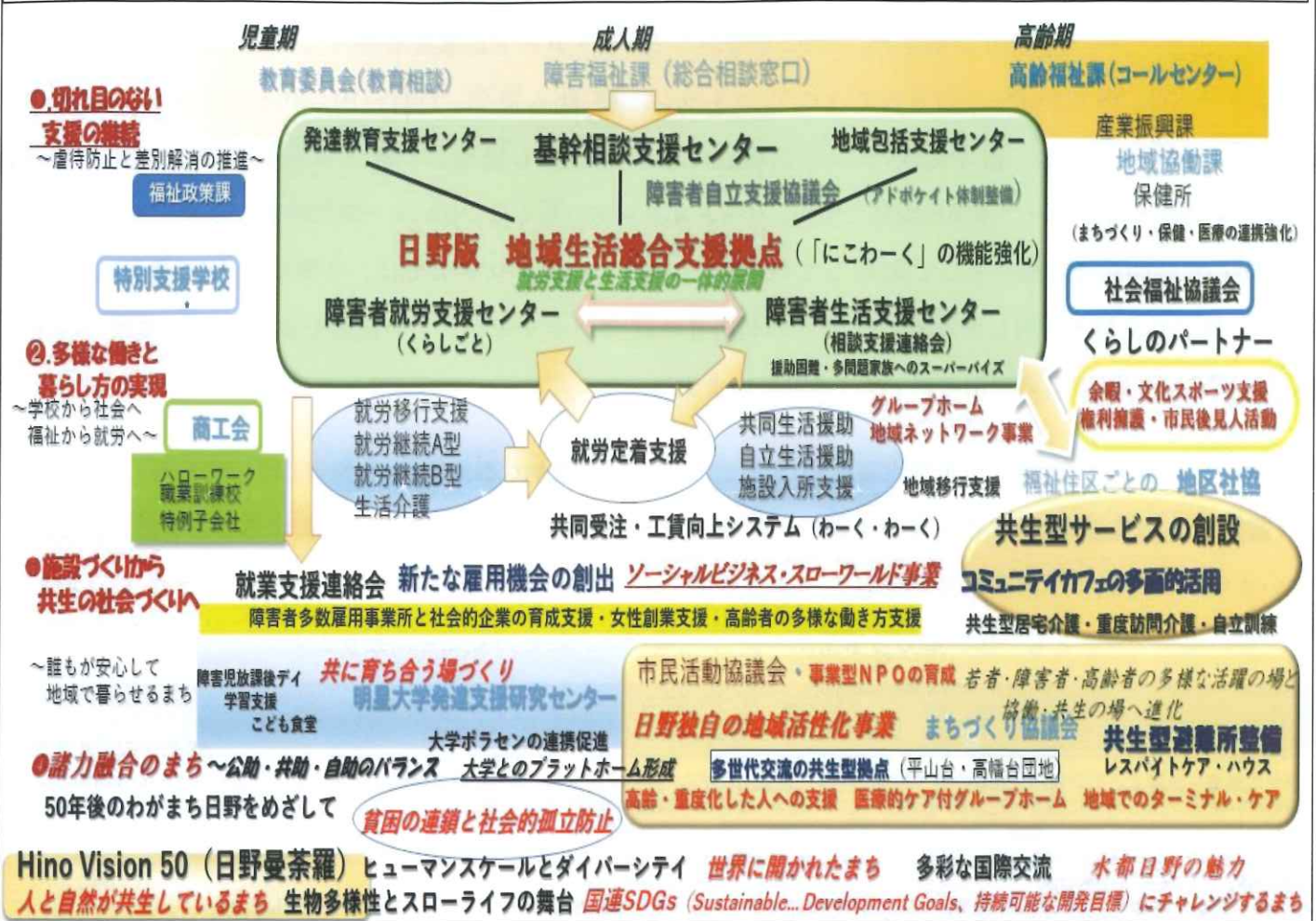
当時は、国策として障害者収容の大規模コロニー網を全国に整備することが本格化した時代でした。東京では「座敷牢」生活の最重度障害者を救済するために、美濃部革新都政の目玉政策として「府中療育センター」が創設されました。しかし、障害当事者から「医療モルモット」扱いされているとしての告発の闘いが展開されました。その中心的存在が、おちかわ屋とやまぼうしの創業メンバーの志野雅子さん（重度脳性まひ者）達でした。また、劣悪な労働条件で腰痛症で苦しむ施設職員の労働条件改善も切実な課題でした。『重度重症児者問題研究会』で全国の重症児者施設の職員（島田療育園・滝乃川学園・びわこ学園・多摩療護園・秩父学園・都職労民生局支部等）との連帯が進みました。その後、都立施設の抜本的改革に30年チャレンジしました。

1981年からの国連の「障害者の完全参加と平等」をめざす「国際障害者年がスタートしましたが、施設の差別的隔離は温存されていました。それから20年かけて2001年に「脱施設のやまぼうし」を誕生することが出来ました。やまぼうしの前身の「障壁のない地域社会日野を創る会」は1990年に創られ、様々な「ワークショップ」を展開しました。その主要な事業が「ワークショップ落川屋」であり、「日野まちづくりマスタープランを創る会」（明峰哲夫代表）でした。第2おちかわ屋（多摩防水の分室・2階は七生の卒園生の宿舎）でヘルパーステーション「虹の橋」の立ち上げ準備を進めていました。CIL日野の設立総会も「第2おちかわ屋」で開催されました。（志野・伊藤も運営委員に）地域自立した志野は日野療護園のオンブズパーソンに就任。やまぼうしの初年度の事業は『農あるまちづくりへの障害者参加試行事業』で、2年次以降は、「施設の長期入所者の地域移行の場となる都内初の「重度生活寮」（みお）を皮切りに、ののか・げん・つぐみの開設を進めてきました。

あわせて、当時三多摩でワーストワンだった日野市の「ダストボックス方式」（無選別）の見直し運動に参画し、全国でも前例のない「里山倉沢保全パートナーシップ協定」を締結し、「里山耕房くらさわ」が誕生しました。次いで、鈴木牧場の牛糞と日野百草地区の「家庭用生ごみ」をブレンド化する事業に着手しました。その成果が、「日野のゴミゼロ」を目指す分別収集と資源化事業につながり、後のプラごみ資源化工場の建設に結実しました。昨年、日野市は人口規模20万都市では、全国一の資源化都市として認定されました。官民協働の成果です。

## 2. 「共生社会／日野モデル～共に生きるまち日野づくり」への提言

私は2018年に日野市の障害者計画策定委員会で日野独自の「誰もが安心して暮らせるまちづくりプラン」を新たな視点からの提言を行いました。この構想は、委員会での検討素材となりましたが、これがミレットロード事業構想の起点となりました。



3. 多摩エリアをベースにした、重層的・多面的事業提携の事業創造へ！

「切れ目のない支援の継続」と「多様な働き方と暮らし方の実践」のために

★日野市は、東京都で初の「SDGsの未来都市」の指定を受けて、2021年4月からのプラ選別工場の事業を開始しました。同時に、就労の機会に恵まれずにきた、「障害者等就労困難者」を積極的に受け入れることになりました。そして、日野市クリーンセンターの元請け企業に対して「障害者等の就労・定着支援のコーディネーターを配置すること」が委託の条件となっています。その業務を日野市障害者就労支援センター「くらしごと」の所長(当時)である伊藤勲が受託し、立ち上げ準備中のミレットロードへつないでいくことで合意しました。これは、都のソーシャルファーム条例制定の動向も視野に入れてのことでしたが、障害者手帳の有無を問わない独自の「障害者等就労困難者」への新たな支援事業のスタートとなりました。

- ① 初年度の2020年4月から、障害者等就労困難者4名を第1期生として元請け企業の「日本管財環境サービス」の概ね3年間の単年度契約社員として採用しました。
- ② 第1期生4名は、様々の就労困難な課題を抱えながら、就労定着し、時給1200円で社会保険加入のパート契約で働き始めました。その中の一人は、やまぼうし平山台のメンバーです。
- ③ また、長期間の引きこもりだった方は週3日勤務の短時間雇用からスタートされ、毎年1日づつ増やし、現在週5日で就労継続雇用されている方もいます。現在は、聴覚障害者の方もプラ選別工場で元気に仕事を続け、奥さんも聴覚障害者ですが、地域での自立生活を送られています。

★東京都は、東京都多摩障害者スポーツセンターを、1984年に全国で5番目、東日本では初めての障害者スポーツ施設として国立市に設置し、障害のある方々の健康増進と社会参加を促進する事業に取り組んできました。東京オリンピックを機に、都は建物全面リニューアルと合わせて、レストラン事業者の再公募が行われた結果、多彩なコミュニティレストランの実績が評価され、2022年度からミレットロードが事業承継することになりました。

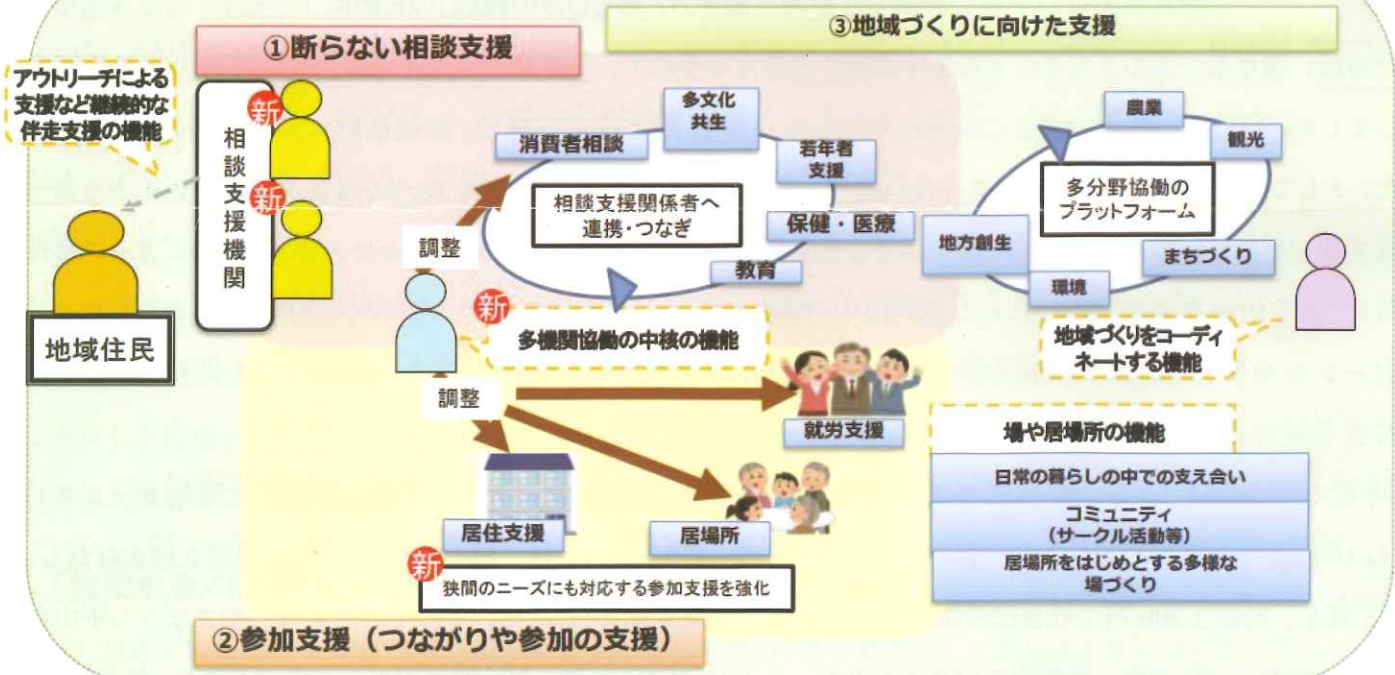
① センターには、宿泊施設も併設されていて、レストランは朝食も提供、11時～19:30営業日はセンター休館日(水・祝日の翌日)。また、宿泊施設7室の宿泊施設利用者の朝食も提供。② 土日祝日営業、早朝・純夜勤もあり、就労Bでのスタッフ体制は困難ですが、パートスタッフの多くは、センター開設時からのベテランで、地元の高齢者の短時間雇用の機会として定着しています。③ ミレットロードでは、多様な就労の機会の提供に心がけ、施設外支援を活用した近隣の就労Bの利用者の就労へのチャレンジの機会を提供しています。白野・八王子・国分寺の障害Bの利用者がトライされています。

すでに、三年前から「重層的事業提携事業」の本格化に向けた「多面的な事業提携」を模索してきました。折しも、国は、「選択的就労支援事業」の導入準備を進め、従来の就労支援事業の閉塞状況を打開することを愁眉の課題としています。しかし、「生活困難者」が巷にあふれる中、かつてない程「社会的孤立」が深刻化しています。「新たな生活支援の場づくり」とも一体的進める事業体の創出も視野にいれていくこととなります。

## 新たな事業について(イメージ)

- 新たな事業を実施する市町村は、地域住民や関係機関等と議論しながら、管轄域内全体で断らない包括的な支援体制を整備する方策を検討する。
- 断らない相談支援の機能に繋がった本人・世帯について、複雑・複合的な課題が存在している場合には、新たに整備する多機関協働の中核の機能が複数支援者間を調整するとともに、地域とのつながりを構築する参加支援へのつなぎを行う。
- また、支援ニーズが明らかでない本人・世帯については、断らない相談支援の機能に位置づけるアウトリーチによる支援など継続的につながり続ける伴走の機能により、関係性を保つ。
- これらの機能を地域の実情に応じて整備しつつ、市町村全体でチームによる支援を進め、断らない相談支援体制を構築していく。
- また、地域づくりに向けた支援を行うことにより、地域において、誰もが多様な経路でつながり、参加することのできる環境を広げる。

### 新たな事業全体



## 里山耕房くらさわ 特集

関係者のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。日頃より特定非営利活動法人やまぼうしの運営にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。今回、里山耕房くらさわが開設20年という節目でありますので、簡単にご挨拶をさせていただきます。



さとやまこうぼう  
里山工房くらさわ  
Tel & Fax 042-583-8137



里山耕房くらさわは2004年に開設をいたしました。日野市の倉沢地区の里山保全の目的で日野市とのパートナーシップ協定を結び、小規模作業所として畑の管理を始めたのが始まりです。その後、借家の関係で転々として2016年に今の日野市東豊田にきています。自前の土地・建物ではないので、相続が発生すると立ち退かなければならぬ事態となってしまう宿命です。昨年、現在の場所もオーナーがお亡くなりになり心配をしたのですが、相続人のご理解でそのまま借りることができています。この場所は、近隣の方からもご理解をいただき、良い関係にあると思っております。実は以前の場所では、近隣の方から障害を持った方は危険な人たちだから出て行ってほしいと言われ、何度か話し合いを持ったことがありました。福祉のリアルさを身をもって体験したことが記憶に残っています。



さて、制度や活動についてですが、2011年にエッグドーム・スローワールドが法政大学多摩キャンパス内に従たる事業所として立ち上がり、2014年に就労継続支援B型から里山耕房くらさわが生活介護へ移行しました。エッグドーム・スローワールドはそのまま就労継続支援B型として両者が多機能型事業所となり現在に至っています。今では、里山耕房くらさわの活動の中心はユギムラ（八王子市堀之内）での農作業ではありますが、その他にポスティングや手芸をやってます。詳しい活動内容は、毎月発行しているくらさわ通信を見ていただくと幸いです。これからの課題としましては、利用者の高齢化、強度行動障害と言われる方の支援、そして職員の待遇と考えています。高齢化につきましては、多動な若い方と高齢の方が同じ空間で過ごすことの難しさがあります。強度行動障害については、環境調整に難しさがあります。職員の待遇については、国の方でも処遇改善をやっていただいておりますので、次は堅実な経営で職員の待遇アップを望んでいるところです。事業所運営は、みなさまのご理解とご協力があることですので、これからも何卒ご指導やご協力をお願い申し上げます。

平山台ベーカリー



えんじょう か あ なた  
1000円以上お買い上げの方に  
ラッピングサービス致します。  
ぜ ひいちど こ くだ  
是非一度お越し下さい。

おちかわ屋



ひらやまだい とうきょうとりつだいがく  
平山台とのコラボで東京都立大学で  
いどうはんばい  
移動販売をはじめました。ベーカリー  
のコッペパンでホットドッグ、ナポリ  
タンドッグ、など販売しています。

れんげ



しお  
塩キャラメルクッキー  
かわい しんとうじょう  
可愛いパッケージで新登場！  
かきげんてい しょうひん  
夏季限定の商品です！



くらさわ



ばたけ ざっそうと しゅうかく  
ひまわり畑では雑草取りや収穫  
さぎょう おおいそが  
作業で大忙しです！  
たくさんしゅうかくで  
ハウスできゅうりも沢山収穫出  
きました。

ワークテラス



ここはどこ  
そうご  
倉庫みたいだね～。  
じぎょうしょ  
じつはワークテラス事務所。  
せいりせいとん か  
整理整頓が欠かせませんっ！！

寄付者名簿(敬称略) 2024年 4月1日～ 6月30日

《寄付・会費納入へのご協力に感謝申し上げます。引き続きご協力お願いします》

- 大口寄付：船橋敬
会費：石坂真也・青木奏・横田朋弘・吉開友耶・吉開房代・田中正和・清水梨絵・鈴木教勝
岩下純子・今井政彦・小嶋航・堀越香津子・勝又岬・武田一泰・峯本正士・藤澤抱一・森野文恵
伊藤勲・伊藤陽子・田畑恵・石井ひとみ・佐々木誠・山本英巳子・金岡弘晃・上原節・市川悦子
岸雅孝・増田広美・秋池智子・佐藤佑太・山田真弓・中島嘉宏・御崎さなえ・小澤勇氣・坂元幸子
坂元陽子・矢崎功・矢崎潤子・矢崎信光・谷内久子・山田八千代・山田由美子・工藤里花
出沼恵美子・坂本勇治・柳川誠・若月智和・小池祥雅・鈴木武夫・柴崎知子・柴崎眞理・柴崎國男
田代綾子・根木山和子・藤塚優理子・尾川由美・井川福子・矢野直也・森下綾子・宮川真和
宮國唯月・内藤萌花・阿部正明・栗秋夏奈・荻野銀・荻野由絵・薄葉三希・伊藤佳織・草場清則
寄付：中井久雄・藤内昌信・清水晃・川端邦彦・岩下治雄・浅野央枝・(株)シップス・伊藤勲
伊藤陽子・田畑郁子・平野雄三・山本慎・金岡里枝・山田卓・佐藤佑太・埴原春美・谷内久子
峯本まり子・工藤里花・小池祥雅・柴崎國男・東深澤良昭・藤塚優理子・尾川由美・東崎清恵
草場清則

発行元 認定NPO法人やまぼうし
〒191-0062 東京都日野市多摩平2-12-2
Tel 042-581-7946 Fax 042-514-9507
E-mail info@yamabousi.org URL https://www.yamabousi.org/

振込先 ゆうちょ銀行9900 店番019 当座0123984 特定非営利活動法人やまぼうし
【郵便局 記号00100-7 番号 123984 特定非営利活動法人 やまぼうし】

やまぼうしは、障がいのある人、家族はもちろん支援スタッフやサポーター、通信購読者も共に会員登録をして会の活動を支えています。